

鶏パスツレラ症に見られた髄膜炎の病理学的考察

【 目的 】

Pasteurella multocida (Pm) による頭部腫脹病変が鶏や七面鳥が知られ、時に髄膜炎を伴うことが報告されています。髄膜炎を特徴とする Pm 感染症 2 事例に遭遇し、病理発生について検討しました。

【 成績の概要 】

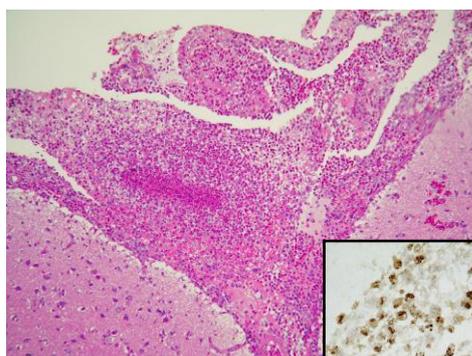
鶏パスツレラ症と診断された、農場及び用途の異なる 2 事例 (A: 肉用鶏 45 日齢, B: 肉用種鶏 28 週齢) で、髄膜炎 (A: 6/8, B: 3/10) が認められました。事例 A では、斜頸が特徴症状で発生鶏舎の死亡率は 18%、事例 B では、顔面症状が特徴症状で死亡率は 4%未満でした。

組織学的に、髄膜炎のほか、肝臓における血栓 (A: 8/8, B: 10/10) と巣状壊死 (A: 8/8, B: 6/10) が 2 事例に共通していました。また、事例 B では、半数に頭部・眼瞼部の線維素化膿性皮下織炎が認められました。髄膜炎の見られた全ての個体で、頭蓋含気骨腔内に線維素化膿性炎を随伴していました。検索された全ての鶏の諸臓器から Pm が分離され、これら病変部に一致して Pm 抗原が確認されました。

以上から、髄膜炎の病理発生は、敗血症と含気骨からの炎症の波及の両者又は一方が関与したものと推察された。



A 農場罹患鶏の斜頸



A 農場罹患鶏の脳

挿入図：同部位の SAB 染色

【 成績の活用 】

神経症状及び顔面症状を呈した病鶏の類症鑑別に必要。

【 留意事項・備考 】